



病気やけがなどで脳に損傷を受け、記憶・理解力・言語・注意・計画性などに障害が起き、日常生活や社会生活に支障をきたす状態を指します。人によって、さまざまな障害がいろいろな形で組み合わせられて起こりますので(一人一人症状が異なるので)、外見からはなかなか分かりにくく、「見えない障害」とも言われます。

本人(当事者)はもちろん、家族もまた苦しんでおります。でも、周囲の人々の理解や対応で、生きやすくなり症状の改善につながります。

なお、高次脳機能障害とは、「高次」な「脳機能」の「障害」であって、「脳機能」の「高次」な「障害」ではありません。しかも、症状が進行・悪化するものではありません。

■会の目的 「高次脳機能障害者が、生き甲斐を持って働き、生きる場所をつくる。」ことを目的としております。

■会の特徴

リハビリテーション分野の第一人者である上田 敏氏(日本障害者リハビリテーション協会顧問、元東京大学医学部教授)が、当会の顧問であり、先生の相談会を受けることができます。先生は、リハビリテーションの真の意味が「人間らしく生きる権利の回復」であることを強調されています。

■会 長 増村 幸子 (当事者の母)

「当事者は今まで出来ていたことが急にできなくなり、失敗の連続で自信喪失し、引きこもりがちになります。家族は介護で疲れ、さらに生活不安で将来に希望を持たず、支援を求めています。高次脳機能障害者の生活は、周囲や家族の理解と対応で改善されます。できることを伸ばしながら、ゆっくりと進化していきます。」(「いちごえ会だより」号外：2012年7月1日発行より)

■会の基本姿勢 “障害とともに、地域の人々とともに、生きる“

- ① 会員やご家族が、問題を一人で抱え込まないように、かつ孤立しないように、お互いに助け合う。
- ② 楽しい会にすることを心掛ける。
- ③ 当事者が自主運営できるような仕組みをつくる。

■会の具体的活動

- ① 会報「いちごえ会だより」の発行(年3回程度)
- ② 講演会の開催(年3回程度)
- ③ 相談会の開催(会員の希望により随時)
- ④ 当事者・家族の交流会
(会員でなくても参加可能。年3回程度。うち1回はお花見)
- ⑤ 他団体との交流、関係機関等からの情報収集

■会の重点目標(2014年度の例)

- ・高次脳機能障害者に対する理解を広げるために、情報を発信するとともに、地域・他団体・行政等との連携を深め、サポートの輪を広げる。
- ・会員や家族が問題を一人で抱え込まず、かつ孤立しないように、会員同士で助け合うための仕組み(相談会、交流会、勉強会等)を拡充する。
- ・高次脳機能障害者が、家庭内自立できるシステムを構築する。

■連絡先 〒187-0004 東京都小金井市本町2-20-9-103 増村方
HP : [URL:http://ichigoe.org](http://ichigoe.org) メール送信先:info@ichigoe.org